

平成28年度第26回「中村元東方学術賞」授賞式

平成28年10月10日インド大使館

第26回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員会における選考経過をご報告し、併せて授賞理由を申し述べさせて頂きたいと思
います。この度の選考に際しましては、ひろくインターネットを通じて「中村元東方学術賞」
に相応しい功績のある研究者を公募いたしました。それと同時に従来のように「中村元東方
学術賞」審査委員会委員の先生方の他に、過去25回にわたりまして中村元東方学術賞を受
賞された方々にも授賞者の推薦方をお願いいたしました。その結果推薦された研究者は、そ
れぞれにすぐれた業績を挙げられており、選定は困難を極めましたが、慎重審議の結果、皆
様にご案内状でご報告申し上げましたように、第26回の中村元東方学術賞を

和田壽弘名古屋大学大学院教授

に差し上げることに決定致しました。授賞理由は以下の通りであります。

授 賞 理 由

和田壽弘博士は、昭和29(1954)年のお生まれで、名古屋大学大学院にご在学
中、インド・プーナ大学留学を機に、世界的な権威である V. N. Jha 教授に師事
し、14世紀のガンゲーシャによって体系が確立された新ニヤーヤ学派 (Navya-
nyāya、新論理学派) の研究に専念されました。これは古典インド哲学諸学派の
中で現代にもその伝統が継承されている学派の一つです。

日本では、この学派の研究は比較的平易な綱要書に基づいて行われることが
通例でしたが、和田博士は極めて難解なガンゲーシャの『タットヴァ・チンタ
ターマニ』（『真理宝珠』）と16世紀のラグナータの註釈書『タットヴァ・チン
ターマニ・ディーディティ』（『真理宝珠解明』）とにおける「論理的随伴関
係の確定的定義の章」（Siddhāntaprakaraṇa、遍充確定定義章）の翻訳に取り組
まれ、『新ニヤーヤ学における論理的随伴関係の概念』と題する博士論文をプ
ーナ大学に提出されました。これによって1988年にプーナ大学より Ph.D.を取
得され、この論文を1990年にインドで出版されました。

和田博士は、この論文によって、インド論理学における知識根拠の一つであ
る推論の妥当性を保証する論理的随伴関係 (vyāpti、遍充) を、新ニヤーヤ学派
のガンゲーシャと、新ニヤーヤ学派の伝統において革新的という評価を受ける
ラグナータとがどのように定義したかを明らかにされました。また、定義の論
理的構造を表す方法として、従来は記号を用いることが一般的でしたが、和田

博士は画期的な特殊な図式を用いられました。これにより、複雑な定義の構造が視覚的に容易に理解できるようになりました。この図式は他学派の概念や理論の分析の助けともなる可能性を秘めております。

和田博士の第2のご論考は、『新ニヤーヤ学の分析方法』と題され、2007年にオランダのフローニンゲンから、偉大なインド学者でオランダ人の名を冠したヤン・ホンダ財団の後援の下に出版されました。本書においては、この学派の特徴を「関係による分析」に求め、この分析方法は11世紀のウダヤナに遡ることを明らかにし、この結果、この学派の起源を11世紀のウダヤナとし、さらに、「制限者」などの重要術語がこの特徴と深く関わっていることを確証され、この学派の特徴を美事に解明されたことは、和田博士の顕著な功績として高く評価されるべきであります。

和田博士は、インド論理学における重要概念の解明に取り組まれただけでなく、言語分析の分野でも重要な貢献をしておられます。ガンゲーシャの『タットヴァ・チンターマニ』における「定動詞語尾章」(Ākhyātavāda)の英語訳と詳細な解説を完了されました。この章は、新ニヤーヤ学派とミーマーンサー学派とパーニニ文法学派とが定動詞語尾の意味に関する議論を提示していますが、定動詞語尾の意味に止まらず、文からどのような意味が理解されるのかという現代の言語哲学にもつながる課題を視野に入れて議論しておられます。今後、和田博士は新ニヤーヤ学派の言語分析の分野でも世界の研究をリードされるものと期待されます。

和田博士の著書や論文の多くは英語で発表され、また国際学術大会や国際会議での発表も多く、その学術的な顕著なご功績は、国際的に承認されているところであり、インド、イギリス、スイス、スウェーデン、インドネシアの大学での招待講演も数多く受諾されております。しかも所属する名古屋大学のインド文化学研究室から、インド学の分野では、1989年の11号以来我が国で初めて

の全頁英語の *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Saṃbhāṣā* を刊行し、2013年には、インド政府の哲学研究会議(Indian Council of Philosophical Research)の客員教授としてインドの主要3大学と1施設で講演されました。この際には、新ニヤーヤ学研究を長年にわたって主導した著名な、故ビマル・マティラル教授の名を冠した「第1回マティラル記念講演」をニューデリーで行われました。2014年には、同じく新ニヤーヤ学研究で著名なインド人研究者の名を冠した「2013年度ゴーピカモーハン・バッターチャールヤ教授記念講演」をクルクシェ

ートラで行われました。

以上、和田博士の、インド哲学、とくに新ニヤーヤ学派の領域におけるご功績はまことに輝かしいものがあり、また国際学会、とくに新ニヤーヤ学の発祥の地であるインドの学会での高い評価とご活躍は、中村元東方学術賞にまことに相応しいものと判断され、今回の授賞となった次第であります。